

平成22年 5月20日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520598

研究課題名（和文）西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究

研究課題名（英文）Aspects of history, language, and culture of the He-xi area in the Xixia period

研究代表者

荒川 慎太郎（ARAKAWA SHINTARO）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：10361734

研究成果の概要（和文）：西夏は11-13世紀に中国西北地域の要衝を占めた国家である。本研究では特に、研究の遅れていた河西地域における、西夏の歴史・言語・文化に関して多角的な考察を行なった。ロシアに所蔵される、難解な西夏文字によって記された文献を資料とした研究、及び敦煌遺跡の壁画などを実見調査した研究を通じて、西夏仏教、西夏仏教文献、西夏語、西夏の官制・軍制、西夏の商業などの各方面で、多くの新発見を得た。

研究成果の概要（英文）：The northwest area of China was under Xixia dynasty from 11th to 13th. This program covered aspects of history, language, and culture of the Hexi area in the Xixia period. Based on the studies of original materials, we made many discoveries through Tangut Buddhism, their philology, language, system of officials and army and commerce.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：内陸アジア史、西夏語文献、西夏史、西夏仏教、河西地域

1. 研究開始当初の背景

(1)西夏研究と課題点

「西夏」は11世紀から13世紀、中国西北部の要所を占めた国家である。二百年という統治期間と、周辺諸国へ与えた影響、その後の西夏遺民の活動は、特筆すべきものである。

ただし資料的な制約などから、近年まで西夏国の研究は十全なものとはいえなかった。

研究の遅延の一つは、西夏の言語は漢字を模倣した疑似漢字である「西夏文字」によって記されており、西夏語資料の読解が難しかったためであった。また、ロシアや中国とい

った、大量の西夏語文献の所蔵国では、資料の公開が進まず、諸研究者に資することができなかったことも一因だった。

(2)研究環境の整備

一方 1990 年代以降、研究環境は大きく変わった。

西夏研究の基礎資料となる、ロシア、中国の所蔵文献は、前者が 1996 年、後者が 2005 年から、大型図録の形（『俄蔵黒水城文献』、『中国蔵西夏文献』など）で刊行が進み、研究者は十年前とは桁違いの資料を目にすることが出来る時代となった。

加えて、西夏文字の電子的情報処理も進んだ。研究代表者が監修を務めた、外字フォント集『今昔文字鏡』（紀伊国屋書店）「西夏文字フォント」6000 字により、手書きやスキャンに頼らざるを得なかった西夏文字のテキスト化は、従来より格段に容易になった。こうした背景も、本研究を成立させる基盤となった。

(3)国内外の研究動向

西夏とその周辺に関する学際的な研究熱は急速に高まりつつある。西夏の歴史・言語・文化に関する総合的な国際学会『第二回国際西夏学会』が 2005 年夏に、西夏の重要な遺跡である黒水（カラホト）城（中国・内蒙古自治区）の歴史と周辺環境に関する『黒水城人文と環境国際学術研究会（カラホトの環境と歴史に関する国際シンポジウム）』が 2006 年秋に、それぞれ中国で開催された。中・台・日・露・米といった各国の研究者が一堂に会し、西夏に関する学術的関心の高さを窺わせた。カラホトと周辺（エチナ川流域）の自然・歴史・環境に関する研究は、総合地球環境学研究所（京都）の通称「オアシス・プロジェクト」の研究対象ともなり、各方面

の研究者からも注目を集めていた。また、この研究活動は一般にも公開されたため（NHK『新シルクロード』「カラホト一砂に消えた西夏」（2005）、講談社『新シルクロードの旅 3』（2005）など）、研究者以外からの成果への関心も高まっていた。

2. 研究の目的

(1)対象地域の限定

近年、かつて西夏の都があった銀川（中国・寧夏回族自治区）、北部の要衝であったカラホト地域の諸研究は進みつつあった。しかし、当時の交通の要所とされる河西地域（ここでは、中国・甘粛省の黄河以西の地域、および内蒙古自治区阿拉善盟の地域を指す）方面の研究は十分ではなく、今後検討すべき課題が多かった。とりわけ、西夏支配時代の河西地域がどのような状況であったのかには検討の余地があった。従来の西夏研究は、銀川・カラホトといった特定の地域から西夏国の全体像を分析しようとしたものがほとんどだった。加えて、近年カラホト以外の河西各地の遺跡からも西夏時代の文物が発見されていたが、個別の研究にとどまり、総合的な、また他地域と比較対照した考察が求められていた。

本研究は、短い研究期間の中で、主な対象地域を、西夏の支配地域にとって重要かつ、未開拓の領域に限定し、その地域性を強調することを目的とした。

(2)現地・現物実見に基づく研究

西夏研究のうち、公開された文献・図版に基づくものは少なくない。しかし、先行研究に追随するのみでは十分な考察は行えない。例えば、西夏文字は一点・一画の差異で語義が異なる。また、図版で公開されていない資料裏面に重要な情報が記されていることも

ある。現地・現物の調査が不可欠である所以である。そのため、本研究では、各領域の実見調査で新たな知見を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、考察にあたって、既刊の写真版などの資料集のみに頼ることなく、現地の遺跡や文献を所蔵する海外の所蔵機関に直接赴き、資料の現物を実際の眼で見ること、そのうえで正確なデータを収集することに重きを置いた。

(1) 現地実見調査（敦煌莫高窟他）

河西地域の歴史遺跡、敦煌莫高窟、安西榆林窟などには、西夏時代の石窟・壁画、西夏文字による題記が残され、西夏仏教、文化、言語、軍事制度などを知る手がかりが豊富である。

2008年6月、研究代表者荒川、研究分担者佐藤貴保、研究協力者向本健は、中国甘粛省の敦煌莫高窟、安西榆林窟・東千仏洞を調査した。現地機関の協力の元、荒川は確認できる西夏文字を、先行研究と照らし合わせ、大部分を筆写・記録した。佐藤貴保は石窟に描かれた供養人像などを調査した。向本は調査が許可された西夏窟全ての概況を調査した。

(2) 現物実見調査（ロシア他）

2008～2010年、荒川、佐藤貴保（佐藤の本研究費による渡航は2008年のみ）は、ロシア連邦サンクト・ペテルブルク市、東方文献研究所に所蔵される西夏語文献ならびに西夏時代の漢語文献を閲覧し、それぞれ、西夏語仏典、西夏文・漢文世俗文献の研究を進めた。荒川は特に西夏時代の仏教文献、佐藤貴保は西夏時代の漢文世俗文献（貿易場に関連する文書群）を実見調査した。また、研究協

力者小野裕子は2008年、同所に所蔵される西夏の重要な軍事法典『貞観玉鏡統』の調査を行った。

2009年6月、荒川は米国プリンストン大学所蔵西夏文各種断片の実見調査を行った。西夏文華嚴經七十七卷、他の仏教文献断片を全て調査した。

4. 研究成果

(1) 西夏の仏教と言語

2009年3月、荒川、向本は「第9回遼金西夏史研究会大会」において、それぞれの研究分野に関して発表を行った。従来、これら石窟に関する諸研究では1980年代以前の調査で得られたデータを何らの検証もせずを使用してきたが、実見調査による検証と新たな発見を盛り込みことが出来た。荒川は西夏文題記に見られる西夏語の言語学的特徴を述べ、向本は西夏時代の仏画などに関して新たな知見を提示した。科学研究費補助金基盤研究(C)成果報告書(2010)に収録した、向本報告、及び荒川報告もそれらの考察がもとになっている。

荒川は2009年6月、プリンストン大学所蔵西夏文の実見調査を行い、その研究によって、所蔵品の一部が敦煌北区石窟出土の西夏文断片と明確に関連することを、今回初めて明らかにした。同資料に関する研究成果の一部は、中国で開催された国際学会などで発表した。

(2) 西夏の官制、軍制

同成果報告書の佐藤貴保第1報告は榆林窟での調査をもとに、画像資料と文字資料を総合して分析した、西夏の官制史に関する論考である。

また、小野は2008年の調査をもとに、先行研究が明らかにし得なかった西夏の軍事

法典『貞觀玉鏡統』の成立年代を初めて特定したうえで、西夏の軍制に関する成果を学術誌に発表した。

(3)西夏の商業・貿易に関する研究

佐藤貴保は、ロシア東方文献研究所における文献調査を基盤とし、近年学界で注目されている西夏時代の漢文世俗文献に関するテキストの最も正確な録文を提示している。成果報告書の佐藤貴保第2報告がその一つであり、西夏の商業場を扱っている。

(4)西夏研究文献目録

西夏とそれに関連する研究は、近年の国内においても活発であり、発表された論著の分量も少なくない。研究協力者佐藤友則の整理による、2002年以降の日本における西夏研究の文献目録が同成果報告書に収録されている。本資料が諸分野の研究者にとって有用であることは言を俟たない。

これらの個別研究に加え、荒川、佐藤貴保、佐藤友則、向本、小野は、日中共同編集により出版準備が進められている『日本蔵西夏文文献』（上下巻、近刊）の整理編集に従事した。本書は本研究メンバーと、北方民族大学（中国・寧夏回族自治区）の協同により刊行される大型図録である。日本国内の大学、研究機関の所蔵する西夏文文献を初めて全て網羅するもので、言うまでもなく今後の西夏研究に多大な貢献が期待される書物である。中でも、天理図書館所蔵西夏文断片などは河西地域からの将来品と目され、本基盤研究が対象とする研究目的にも合致する重要な資料である。同書の刊行もまた、本研究の将来的、国際的な研究成果である。

以上のような一連の研究活動は、いずれも西夏時代の河西地域の言語、仏教、歴史を知

る上で欠かせない研究・資料であり、難解な西夏文字による文献資料の解読と、それに関連する研究は斯学の進展に大きく寄与するものである。これらの研究が、今後さまざまな学問的波及の礎となることが期待される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

①佐藤貴保、現物調査に基づく西夏法令集

『天盛禁令』条文の復元—巻9、第554-558条を例として—、『遼金西夏研究の現在』(3)（荒川慎太郎・高井康典行・渡辺健哉編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、査読有、2010、pp. 87-106

②佐藤貴保、榆林窟第29窟男性供養人像に見る西夏の官制—官僚登用制度を中心に—、平成19-21年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」、査読無、2010、pp. 1-10

③佐藤貴保、ロシア蔵カラホト出土西夏権行使関連漢文文書群録文訂補、平成19-21年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」、査読無、2010、pp. 11-18

④向本健、敦煌石窟群調査報告—西夏支配期における敦煌石窟群について—、平成19-21年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」、査読無、2010、pp. 19-36

- ⑤佐藤友則、日本における西夏・タンゲート研究文献目録・続（稿）、平成 19-21 年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」、査読無、2010、pp. 37-44
- ⑥荒川慎太郎、莫高窟・榆林窟・東千仏洞西夏文題記訳注、平成 19-21 年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」、査読無、2010、pp. 45-106
- ⑦荒川慎太郎、西夏語の格標識について、チベット=ビルマ系言語の文法現象 1：格とその周辺（澤田英夫編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、査読無、2010、pp. 153-174
- ⑧佐藤貴保、ロシア蔵西夏文『天盛禁令』第 2585 号断片について、『西北出土文献研究』7、査読有、2009、pp. 89-101
- ⑨荒川慎太郎、大英図書館所蔵夏蔵対音資料 Or. 12380/3495 について、京都大学言語学研究、査読有、27 号、2008、pp. 203-212
- ⑩小野裕子、西夏文軍事法典『貞観玉鏡統』の成立と目的及び「軍統」の規定について、『遼金西夏史研究の現在』(1)（荒川慎太郎・高井康典行・渡辺健哉編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2008、pp. 71-100

[学会発表] (計 8 件)

- ①ARAKAWA Shintaro, Brief report on the Tangut version of Avatamsaka sutra kept in the Princeton university, International Workshop on the Tangut

Language and Buddhism, 2010/03/20, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所大会議室

- ②ARAKAWA Shintaro, Preliminary Study on the Tangut 'Local' Cases, 西夏語文華北宗教文化国際学術研討会, 2009/12/19, 台北・中央研究院人文社会科学館 3 楼第二会議室
- ③荒川慎太郎、2008 年度敦煌莫高窟・榆林窟調査報告（西夏文題記）、第 9 回遼金西夏史研究会大会、2009/03/15、京都大学文学部新館二階第六講義室
- ④向本健、2008 年度敦煌莫高窟・榆林窟調査報告（敦煌壁画部分・仏教美術）、第 9 回遼金西夏史研究会大会、2009/03/15、京都大学文学部新館二階第六講義室
- ⑤ARAKAWA Shintaro, Preliminary study on the Tangut Buddhist fragments preserved in the Princeton University, International Conference III on Tangutology, 2008/11/08, Ningxia Academy of Social Sciences, Yinchuan
- ⑥ ARAKAWA Shintaro, Some linguistic topics in the Tangut documents in Japan, International Conference on the Qidan, Tangut, Jurchen and Mongolian Historical Records, 2008/11/04, Institute of Ethnology and Anthropology of the Chinese Academy of Social Sciences, Beijing
- ⑦ SATO Takayasu, Study of the Tangut (Xixia) code based on inspection of

actual texts, 遼夏金元歴史文献国際研究会, 2008/11/03, 北京・中央民族大学文華楼 1327 室 (歴史系会議室)

- ⑧佐藤貴保、西夏法典研究に関する諸問題—ロシア蔵カラホト出土『天盛禁令』刊本の現物調査から—、第8回遼金西夏史研究会大会、2008/03/22、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所大会議室

〔図書〕 (計1件)

荒川慎太郎、平成19-21年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」、2010、106 pp

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒川 慎太郎 (ARAKAWA SHINTARO)
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：10361734

(2) 研究分担者

佐藤 貴保 (SATO TAKAYASU)
新潟大学・超域研究機構・准教授
研究者番号：40403026

(3) 研究協力者

小野 裕子 (ONO HIROKO)
岡山理科大学附属中学校・教諭

佐藤 友則 (SATO TOMONORI)
日本アスペクトコア株式会社・尚綱学院大学図書館・職員

向本 健 (MUKAIMOTO KEN)
大谷大学大学院文学研究科・研修員